

令和4年度 日本電子専門学校 第一回学校関係者評価 報告書

評価対象期間 自：令和3年4月 1日
至：令和4年3月31日

令和4年7月

学校関係者評価委員会

目 次

I 学校関係者評価の概要と実施状況

1. 学校関係者評価の目的と基本方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
2. 学校関係者評価委員名簿・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
3. 学校関係者評価委員会の実施状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
4. 学校関係者評価（自己評価結果）の評価の仕方・・・・・・・・・・6

II 学校関係者評価報告書の見方・・・・・・・・・・・・・・・・・・8

III 学校関係者評価委員会 評価結果報告

総評・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9

項目別評価結果

○教育重点項目・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10

○評価項目の達成及び取組状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・12

基準2 学校運営

基準3 教育活動

基準4 学修成果

基準5 学生支援

基準6 教育環境

基準7 学生の募集と受入れ

基準8 財務

基準9 法令等の遵守

基準10 社会貢献・地域貢献

○総合評価・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・25

IV 学校関係者評価委員会議事録 28

- 1. 全体会自由意見 31
- 2. 分野別分科会 33

議事録

- ① 情報分野分科会 34
- ② ネットワーク・セキュリティ分野分科会 37
- ③ ビジネス分野分科会 40
- ④ 電気分野分科会 42
- ⑤ 電子分野分科会 45
- ⑥ ゲーム分野分科会 47
- ⑦ アニメ分野分科会 49
- ⑧ デザイン分野分科会 51
- ⑨ CG・映像分野分科会 54
- ⑩ モバイル・AI 分野分科会 56

I 学校関係者評価の概要と実施状況

1. 学校関係者評価の目的と基本方針

1) 目的

日本電子専門学校における学校関係者評価の目的を、以下のように定める。

- ①自己評価の評価結果について、学校外の関係者による評価をおこない、自己評価結果の客観性・透明性を高める。
- ②生徒・卒業生、関係業界、専修学校団体・職能団体・専門分野の関係団体、中学校・高等学校等、日本語教育機関、家族・保証人、地域住民、所轄庁・自治体の関係部局、在学生など、専修学校と密接に関係する者の理解促進や連携協力による学校運営の改善を図る。

2) 基本方針

日本電子専門学校における学校関係者評価は、文部科学省及び私立専門学校等評価研究機構の『専修学校における学校評価ガイドライン』に則って行うことを基本方針とする。

3) 委員会運営

令和4年度における学校関係者評価委員会を以下のように年2回の開催とする。

添付：自己点検評価

- ①第1回目(7月)に実施する委員会は、令和3年度(前年度)の運用実績に対する自己点検評価の結果を学校から報告する。
また、令和4年度に定めた、重点的に取り組むことが必要な目標・計画を発表する。
- ②第2回目(11月)に実施する委員会は、令和4年度の運用に於ける実施状況の中間報告会として行う。

2. 学校関係者評価委員名簿

学校関係者評価委員として、卒業生、関係業界、職能団体、関係団体、高等学校、日本語教育機関、家族・保証人、地域住民、在学生に委嘱した。

属性	氏名	所属	役職
企業	鈴木 周祐	株式会社ぴえろ	人事総務部 リーダー
	井沢 祐	株式会社ファンコーポレーション	研究開発部 ディレクター
	木下 幸弘	株式会社ジェイスリー	エグゼクティブ・ アドバイザー
	舟山 大器	株式会社横浜環境デザイン	社長室長
	渡邊 登	合同会社ワタナベ技研	代表
	佐々木 伸彦	ストーンビートセキュリティ株式会社	代表取締役
	伊藤 好宏	JTP 株式会社	技官
職能団体	篠原 たかこ	CG-ARTS (公益財団法人画像情報教育振興協会)	教育事業部 事業部長
	満岡 秀一	一般社団法人 IT 職業能力支援機構	理事
	森 まり子	東京商工会議所 新宿支部	事務局長
	原 洋一	一般社団法人コンピュータソフトウェア協会	常務理事・ 事務局長
	米井 翔	一般社団法人組込みシステム技術協会	人材交流委員会 委員
高校教員等	勝間田 清一		
	品田 健	聖徳学園中学・高等学校	学校改革本部長
	西田 政偉	株式会社ウィザス	高校大学事業本部 高校総括部 通信生運営室 課長代理
日本語学校	会田 由紀子	東京ギャラクシー日本語学校	教務部 副部長

卒業生	谷 伸城	株式会社アプリケーションプロダクト	プロジェクトマネージャー
	中山 秀昭	日本電子専門学校同窓会	副会長
ご家族・ 保証人	高野 優美		
	高橋 晶子		
	大山 宗良		
地域住民	小澤 博太郎	百人町西町会	会長
在校生	山崎 ひかる	コンピュータグラフィックス科	2年生
	笹原 萌絵	アニメーション科	2年生
	岡本 沙織	コンピュータグラフィックス研究科	2年生
	宮下 好葉	コンピュータグラフィックス科	1年生
	水山 颯香	ゲーム企画科	1年生
	森 碧大	電気工事技術科	1年生
	武藤 遼河	高度電気工学科	2年生 学生自治会 会長

3. 学校関係者評価委員会の実施状況

1) 令和4年度第一回学校関係者評価委員会実施日時・場所

日時：令和4年7月11日（月） 13:30 から 16:45

場所：日本電子専門学校 本館 地下1階 1B11 教室

2) 学校関係者評価委員会実施方法

今回は、新型コロナウイルス感染症の拡大を鑑み、密を避けるために、対面で行うことを避け、オンライン会議システム（Zoom）を利用し実施した。

3) 学校関係者評価委員会 進行

(1) 事務連絡（スケジュール、事前配布資料確認） 13:30～

(2) 校長挨拶

(3) 出席者紹介（日本電子教職員、評価委員）

(4) 評価方法説明

(5) 議長（委員長）選出

(6) 学校関係者評価委員会開始 13:50～

自己評価結果の解説とその評価

○教育重点項目

○学校運営

○教育活動

○学修成果

○学生支援

・・・ 評価結果の判定（評価シート記入） ・・・

○教育環境

○学生の募集と受入れ

○財務

○法令等の遵守

○社会貢献、地域貢献

・・・ 評価結果の判定（評価シート記入） ・・・

(7) 令和4年度重点項目発表 15:00～

(8) 意見交換 15:10～15:30

(9) 分科会 15:45～16:45

企業、団体の委員においては、以下の分野別に分科会を行った。

① 情報分野分科会

② ネットワーク・セキュリティ分野分科会

③ ビジネス分野分科会

④ 電気分野分科会

⑤ 電子分野分科会

⑥ ゲーム分野分科会

- ⑦ アニメ分野分科会
- ⑧ デザイン分野分科会
- ⑨ CG・映像分野分科会
- ⑩ モバイル・AI 分野分科会

4. 学校関係者評価（自己評価結果）の評価の仕方

1) 自己点検・自己評価の実施

日本電子専門学校は、第一回学校関係者評価委員会の実施に先立ち、文部科学省及び私立専門学校等評価研究機構の『専修学校における学校評価ガイドライン』に則って、令和4年度自己点検・自己評価を実施した。

尚、令和4年度の第三者評価受審を視野に入れ、今回は「職業実践専門課程第三者評価マニュアル（改訂版）」の評価基準に則った自己点検・自己評価を実施し、点検項目は、令和3年度における「教育重点項目」8項目及び、「評価項目の達成及び取組状況」10分類65項目であり、合計73項目である。

『令和4年度自己点検評価報告書』には、各項目の自己点検実施状況を記載し、自己評価ポイント（適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1、無該当：0）を示した。また、①課題、②今後の改善方法、③特記事項を記載し、学校関係者評価委員に提出した。

2) 自己点検・自己評価結果の報告

学校関係者評価委員会では、『令和4年度自己評価報告書』を用いて、「次年度の課題とする項目」についてのみの報告し、評価をお願いした。

自己評価報告書 記述例

教育重点項目

1. 職業実践専門課程への対応

平成25年8月30日に告示された「職業実践専門課程」について、対象となる全ての学科の認定に向けた以下の対応を行った。

- (1) 教育課程編成委員会・・・各学科の専攻分野に関する企業および関係団体等の要請を十分に生かし、職業実践専門課程の教育を施すに相応しい実践的かつ専門的な教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法改善・工夫等を含む）について検討する委員会。

< 中 略 >

教育重点項目

	評価項目	適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、 不適切：1、無該当：0
重点-1	職業実践専門課程への申請は十分に行われたか	4 ③ 2 1 0

① 課題

② 今後の改善方策

③ 特記事項

3) 自己点検・自己評価結果の評価

学校関係者評価委員は、日本電子専門学校の説明を受け、自己評価報告書の内容及び、自己評価結果の評価方法を理解した上で、日本電子専門学校が行った自己評価結果について「適切」または、「不適切」の2分法にて評価を行い、その理由や意見を「学校関係者評価委員会 評価記入シート」のコメント欄に入力した。

最後に、日本電子専門学校は、評価項目や学校・学科の改善に関する学校関係者委員の自由意見を聴取した。

学校法人 電子学園
日本電子専門学校

12セクション中1個目のセクション

令和4年度第一回学校関係者評価委員会
評価記入シート

令和4年7月11日

メールアドレス*

有効なメールアドレス

このフォームではメールアドレスが収集されます。 [設定を変更](#)

評価者(ご氏名) [記述式]

記述式テキスト(短文回答)

セクション1以降 次のセクションに遷移

12セクション中2個目のセクション

令和3年度 教育重点項目

説明(省略可)

令和3年度教育重点項目*

適切 不適切

評価結果

コメント

記述式テキスト(長文回答)

4) 分野別分科会の実施

学校関係者評価委員会の一環として、学科の教育内容や運営に対する意見を聴取することを目的として、分野別分科会を実施した。分野別分科会には、企業、団体の委員が参加し、日本電子専門学校からは、教育部署長ならびに学科長が参加した。

分野別分科会で意見を聴取し、今後の学校運営に反映させるとともに、教育課程に関する意見は、教育課程編成委員会に申し送ることとした。

分野の別は、以下の通りである。

- ① 情報分野分科会
- ② ネットワーク・セキュリティ分野分科会
- ③ ビジネス分野分科会
- ④ 電気分野分科会
- ⑤ 電子分野分科会
- ⑥ ゲーム分野分科会
- ⑦ アニメ分野分科会
- ⑧ デザイン分野分科会
- ⑨ CG・映像分野分科会
- ⑩ モバイル・AI 分野分科会

II 学校関係者評価報告書の見方

1. 自己評価結果の結果集計

学校関係者評価委員 23 名が記述した評価記入シートより、評価基準の「適切」記入数、「不適切」記入数を集計しパーセント表示した。

2. 委員コメント

評価記入シートの委員コメント欄に、学校関係者評価委員が入力したコメントを項目毎にまとめた。

3. 分科会の意見

分野別分科会で意見交換された内容や、具体的な学科に対する意見・改善提案を議事録「学校関係者評価委員会分野別分科会」にまとめた。

Ⅲ 学校関係者評価委員会 評価結果報告

総 評

本委員会は、日本電子専門学校学校の学校運営に関する自己評価の結果について、学校関係者による評価を行い、自己評価結果の客観性、透明性を高め、理解促進、連携協力によって学校運営の改善に役立てていただくことを目的としています。

第一回目（7月）に実施する委員会は、『令和4年度自己評価報告書』を用いて、日本電子専門学校から報告のあった項目を評価することになっており、この規定に従い、学校関係者評価委員会を令和4年7月11日に実施しました。

今回の学校関係者評価委員会についても、前回同様新型コロナウイルスの感染の危険性がある密集を防ぐため、委員会開催方法を変更し、オンラインでの開催となり、オンライン上で日本電子専門学校の担当者から報告を受けました。

評価については、評価委員の委嘱を受けた、関係する企業、業界団体、卒業生、保護者、地域住民、高等学校教員等（大学、日本語学校含む）、在学生の参加委員22名が、それぞれの立場から、学校担当者からの報告に基づき、項目ごとにその取り組みに対する自己評価が「適切」であったか「不適切」であったかを判断し、コメントを記載しました。

今回は、令和4年度の第三者評価受審を視野に入れた、「職業実践専門課程第三者評価マニュアル（改訂版）」の評価基準に則った自己点検・自己評価が実施され、例年よりも厳しい評価となっていたようです。その日本電子専門学校学校の姿勢を、多くの委員が認め、支持しています。

また、コロナ禍が続く中、授業運用についてしっかりと検討され、常に学生最優先で取り組まれていることも評価しています。

今後も、学校の課題を解決するために、評価委員の意見を反映して頂くとともに、日本電子専門学校及び専門学校全体の教育の質を高めるような取組みを継続し、実施して頂くことをお願い致します。

我々評価委員は、引続き協力することをお約束し、学校関係者評価委員会評価報告書を提出するにあたっての総評と致します。

学校関係者評価委員会
委員長 舟山 大器

令和4年度 日本電子専門学校 自己評価報告

令和3年度教育重点項目

評価結果	適切：22 95.7%	不適切：1
------	----------------	-------

コメント欄

- ① 概ね適切だと思います。
 いくつか気になる点がありましたので、コメントいたします。
 産業界のニーズに基づいた基礎的・汎用的能力養成こそ、専門学校において大変重要なことではないかと思えます。次年度の検討と課題を先送りされたのは何故かなと思ってしまいました。一部でも進捗があったのであれば、その点だけでもご報告いただければ。
 学生主導での社会人基礎力の向上について、学生自治会の活動等学生の自発性のみ依存するのは少し懐疑的です。自己診断により成長したというのは重要な要素ですが、社会人基礎力が身についたかどうかの客観的な判断がなければ、自己満足に終わる可能性も高いです。貴校というわけではありませんが、面接対応の経験から感じたことでもあります。(鈴木)→**適切**
- ② 学生へのアンケートについては、回収率よりも内容が重要になるかと思われまます。内容が不明なので、集計結果の一覧などお差支えない範囲で共有して頂けると嬉しいなと思いました。(井沢)→**適切**
- ③ ほとんどにおいて概ね、積極的に取り組まれており適切だと思います。
 1点、オンライン授業（遠隔授業）においての現時点で表面化している課題があるのかなのか、その辺りもわかると良いかなと思いました。
 また、評価ではないですが、新規導入のDXについては大変素晴らしいと思えます。是非とも手段であるDXの技術だけではなく、それによる解題解決のサンプルなども教育に取り入れるのが就職にも役立つことになると思っていますので、よろしくお願ひします。(木下)→**適切**
- ④ 前向きな考えが良く理解できました。(舟山)→**適切**
- ⑤ 十分施策が推進されていると考えます。(佐々木)→**適切**
- ⑥ とても良く考えられていると思えます。新型コロナ禍の中で難しい内容でもあったと思えますが、遠隔授業の継続、継承化は必要不可欠な取り組みです。また、DXスペシャリスト学科は日本の今後を左右するものなのでとても良いと思えます。(原)→**適切**
- ⑦ 学生自治会や実行委員の学生さんが経験を積む機会がないのは、中高でも同じような問題を抱えております。(品田)→**適切**
- ⑧ 社会人基礎力を全学生測るというのは、人数的にも内容的にも難しいとは思いますが、学校側からの評価だけではなく、学習者の方が自己評価する機会があればいいとも思う。(会田)→**適切**
- ⑨ 学生の主体性、自主性を発揮させるため、教職員の皆様の指導力が増々大切だと思えます。(小澤)→**適切**

- ⑩ 遠隔授業などの取り組みがとてもいいと思いました。また、ドロップアウトを事前に防ぐ取り組みを継続していただきたいと思います。企業との連携が取れた行事も期待しております。(岡本)→適切
- ⑪ 新型コロナウイルスの関係で行っている LEBER での体温入力について、生徒に義務化をしているにも関わらず、学科によっては教える立場である教職員が体温の入力をしていないという結果が出ています。この点についての課題点、改善点を考える必要があると感じます。(水山)→不適切
- ⑫ 適切な評価だと思います。(武藤)→適切
- ⑬ コロナ禍でスポーツフェスティバル中止で学生実行委員経験者がいなくなったとしても、教員の指導なしでも、実行委員が過去のビデオのどを見て、ある程度自主的に計画企画できるのではないかと思います。学生はこの方面においてすごい能力を発揮します。(勝間田)→適切

評価項目の達成及び取組状況

基準 2 学校運営

【2-3】事業計画

2-3-6 理念等を達成するための事業計画を定めているか

評価結果	適切：23 100%	不適切：0
------	---------------	-------

コメント欄

- ① 学生募集は学校運営、理念達成のまずは根幹となるものだと思います。課題達成の策定を期待します。(小澤)→**適切**

【2-7】情報システム

2-7-11 情報システム化に取り組み、業務の効率化を図っているか

評価結果	適切：23 100%	不適切：0
------	---------------	-------

コメント欄

- ① 情報システム化は大変ですよ。導入がゴールではなく、運用の定着まで大変だと思いますので、引き続き検討対応よろしく願いいたします。(鈴木)→**適切**
- ② 適切だと思います。(井沢)→**適切**
- ③ 事業計画についてチェック項目はクリアしているが、少子化に向けどのように計画を立てていくのかを課題とし、より高見を目指していることが分かった。(舟山)→**適切**
- ④ 取り組みは適切と考えます。少子化に対する課題解決は容易ではありませんが、情報システムの活用や柔軟な学習環境の提供など、学びの場の多様化などが重要になると思います。(佐々木)→**適切**
- ⑤ 少子化は喫緊の課題ですので、それを事業計画に取り入れるのはその通りだと思います。情報システムはととも DX 化に進められています。(原)→**適切**
- ⑥ 業務効率の向上を目的とした「情報システム化」の課題についてです。「業務効率化」とペーパーレスは別の課題で、正確性を欠くように思います。「出願者の利便性が低い」などなら主旨に沿っているかなと思います。(米井)→**適切**
- ⑦ 留学生用の願書のペーパーレス化も望みます。(会田)→**適切**
- ⑧ 堅牢な中長期事業計画はどの組織でも難しい課題であるものと存じます。堅牢であることは重要ですが、萎縮せず伸長する計画を勝手ながら期待しております。(谷)→**適切**
- ⑨ 評価は適切(小澤)→**適切**
- ⑩ 適切な評価だと思います。(武藤)→**適切**
- ⑪ Web の時代ですからそうですね、紙と web 出願両方で取り組む必要でしょう。(勝間田)→**適切**

基準3 教育活動

【3-9】教育方法・評価等

3-9-17 授業評価を実施しているか

評価結果	適切：23 100%	不適切：0
------	---------------	-------

コメント欄

- ① 適切だと思います。(井沢)→**適切**
- ② こちらもチェック項目をクリアしているが、より良い授業を目指し、遠隔授業での評価をリアルと同様に評価できる方向性にしたい旨が理解できた。(舟山)→**適切**
- ③ 授業評価の体制を紹介してほしい。学生の評価だけでなく、関連する技術の有識者による評価などが必要と考えます。(渡邊)→**適切**
- ④ オンライン授業は学習の場を柔軟かつ広く提供する上でも重要になると思いますので、毎年評価を続けて頂き、その運用ノウハウなどを是非活用いただければと思います。(佐々木)→**適切**
- ⑤ まだまだ道半ばな部分があることを認識しているようで適切と思います。(原)→**適切**
- ⑥ オンラインでの授業評価については中高でも課題としております。(品田)→**適切**
- ⑦ オンライン授業についての教育手法を確定してください。(小澤)→**適切**
- ⑧ 適切な評価だと思います。(武藤)→**適切**
- ⑨ この時期ですから遠隔授業も重要です。しかし、実習関係の授業が遠隔は大変ですね。頑張ってください。(勝間田)→**適切**

基準 4 学修成果

【4-13】就職率

4-13-25 就職率の向上が図られているか

評価結果	適切：23 100%	不適切：0
------	---------------	-------

コメント欄

- ① サポート対策がきめ細かく行われていると思いました(小澤)→適切

【4-14】資格・免許の取得率

4-14-26 資格・免許取得率の向上が図られているか

評価結果	適切：23 100%	不適切：0
------	---------------	-------

コメント欄

- ① 学生全員が資格を取得するという目標は、大変ハードルの高いものだと思う(小澤)→適切

【4-15】卒業生の社会的評価

4-15-27 卒業生の社会的評価を把握しているか

評価結果	適切：23 100%	不適切：0
------	---------------	-------

コメント欄

- ① アニメーション研究科、アニメーション科について、どのような資格取得を目標設定されているのか気になりました。明確な目的のない資格取得は、資格の取得が目的化するため、なぜこの資格を？どのように生きるか？という観点で不足してしまうことがデメリットになるかと思います。このあたりを課題とするうえで、この観点が明確で将来に生きるという具体的な関係性が明らかであれば、取得率も伸びるのでは？どのような指導をされているかわからないうえでの感想ですので、あくまでも参考まで。(鈴木)→適切
- ② 適切だと思います。(井沢)→適切
- ③ 自己評価として、かなりの厳しさを自ら課していると感じています。これは大変良いことと思います。(舟山)→適切
- ④ 就職率は%としての数値だけでなく、本来の学科で育てる人材象と就職先求人とのマッチ度合いなど、質的な観点の評価も必要と考えます。資格取得について、学科によっては資格不問の仕事も増えてきていると考える。希望就職先の属性などから取得すべき資格についてレコメンドするなど、個性を考えカスタマイズした指導が必要な時代と考えます。(渡邊)→適切
- ⑤ 適切と考えます。(佐々木)→適切

- ⑥ 新型コロナ禍でも就職率が高く、評価も適切だと思います。資格取得向上も自己分析がしっかりしていてよかった。卒業生の社会的評価は重要だと思いますので、課題が明確になっているので、引き続きお願いしたいと思います。(原)→適切
- ⑦ 就職率も資格取得率も高いと思います。資格取得率が低い学科は、指導法の要改善ということもあるかもしれませんが、その資格を取得する必要性を学習者の方がどのようにとらえているか等、学習者の方への動機づけも必要になってくるかと思います。(会田)→適切
- ⑧ オンラインによる就職（採用）活動を考慮した個人ブースの設置は、時代を捉えた素晴らしい施策だと存じます。(谷)→適切
- ⑨ これからの長いサイクルの仕事になると思います。(小澤)→適切
- ⑩ 適切だと思います。(武藤)→適切
- ⑪ 就職率が上がったのは良かったです。卒業生との連絡いろいろな面で重要ですね。同窓会名簿は学校の財産になると思います。(勝間田)→適切

基準 5 学生支援

【5-17】 中途退学への対応

5-17-29 退学率の低減が図られているか

評価結果	適切：23 100%	不適切：0
------	---------------	-------

コメント欄

- ① 指導体制が充実し対策と運用が行われていると思われました(小澤)→**適切**

【5-20】 保護者との連携

5-20-36 保護者との連携体制を構築しているか

評価結果	適切：22 95.7%	不適切：1
------	----------------	-------

コメント欄

- ① 今後、学園がコンピュータに詳しくない保護者に対する情報発信をどのように改善していくか楽しみです。(小澤)→**適切**

【5-21】 卒業生・社会人

5-21-38 産学連携による卒後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか

評価結果	適切：22 95.7%	不適切：1
------	----------------	-------

コメント欄

- ① 卒後の対応は、個人個人に起因するところもあるので、なかなか難しいと思いますので、引き続き検討課題ということは致し方ないと思います。自己評価としては、少し厳しい評価かなと思われました。(鈴木)→**適切**
- ② 適切だと思います。(井沢)→**適切**
- ③ 全体的に自己評価が厳しくチェックされており、大変望ましい形ではないかと思えます。理由から鑑み1ではなく0が相当ではないかと思えます。今後として評価の対象に入れることで解決できるかと。(木下)→**適切**
- ④ いずれの項目も現状認識がしっかりしているため、課題が明確となっている点が非常に良い(舟山)→**適切**
- ⑤ EM/IR 評価など教育関係者以外の委員にキチンと説明すべきと思えます。EM/IR 評価をやっている学科とやっていない学科の比較調査など、EM/IR 評価が理由での退学者削減であったか評価すべきと考える。卒後の再教育プログラムについては、なぜ評価項目に含まれていたのか背景説明が必要と思えます。評価1と言われても困惑するだけです。(渡邊)→**不適切**
- ⑥ 保護者や卒業生・社会人との連携体制やコミュニケーションの維持には、オンデマンド視聴やメール等による一方向コミュニケーションだけではなく、Slack な

どの双方向コミュニケーションなどのサービスを活用しても良いと思います。

(佐々木)→適切

- ⑦ 年間2回のアンケートにより30%退学率低減が出来たとのことですが、ヒアリングだけでなくその後のフォローアップの効果が現れているのだと感じました。(満岡)→適切
- ⑧ 退学者の早期発見ができるようになってよかったし、分析もしっかりしている。保護者との連携も課題が明確と認識していた。産学連携は1とするなど評価そのものは適切だが、企業のDX化を踏まえ考えるとこれからは必要ではないかと思う。(原)→適切
- ⑨ 中途退学を防ぐためには、一人一人への対応が必要になってくると思う。留学生に関して言えば、報告していただく内容から、細やかに一人一人に接していただいているように感じております。また、入学前にも聞き取りをよくしていただいているのも、途中で辞める学生がほとんどいない理由の一つであると思います。(会田)→適切
- ⑩ 取組みは、まず調査終了後ですね。(小澤)→適切
- ⑪ オンラインでの実施の点を考慮しての評価なので適切だと思います。(武藤)→適切
- ⑫ 退学率の低減が図られていることは良かったです。産学連携の卒業後の再教育は難しいですね。やはり同窓会名簿の充実が必要ですね。(勝間田)→適切

基準 6 教育環境

【6-23】学外実習・インターンシップ等

6-23-41 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか

評価結果	適切：22 95.7%	不適切：1
------	----------------	-------

コメント欄

- ① 海外研修と同様の教育効果が期待できる代替の活動にどのようなものがあるか。
コロナ禍でなくても検討すると良いと思います。(小澤)→**適切**

【6-24】防災・安全管理

6-24-42 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか

評価結果	適切：21 91.3%	不適切：2
------	----------------	-------

コメント欄

- ① 適切だと思います。(井沢)→**適切**
- ② 学外実習・インターンシップはコロナ禍において難しいと思いますので、評価はやや厳しすぎかとも思いましたが、評価は適切にしています。(舟山)→**適切**
- ③ 教育環境について海外研修以外の実施状況に関する説明がない。実施状況について前年比など数値的な情報提示を希望する(渡邊)→**適切**
- ④ 防災や危機管理については、インターネットの利用やサイバー攻撃などに対する体制や対処手順の整備も含めて検討いただくのが宜しいかと考えます。不正メールが蔓延・増加しており、教職員様だけではなく学生でもマルウェア感染などへ不安を持つ方も多くいらっしゃると思います。(佐々木)→**適切**
- ⑤ コロナ禍のため、活動が制限されているのは大変残念に思います。オンラインセミナーや、渡航制限解除された国での実施等模索されているかと思いますが、別の方法で実現できることを願っております。(満岡)→**適切**
- ⑥ 新型コロナ禍での評価ですので、問題ないと思います。インターンシップの取り組みは協会としても詳細をお聞かせいただくと嬉しく思います。(原)→**適切**
- ⑦ 御校のスキルを使えば、オンラインでも様々な実用が可能だと思います。オンラインをうまく活用した取り組みについて、今後またお話を聞かせていただきたいです。(会田)→**適切**
- ⑧ 防災体制もきちんと整備されている。(小澤)→**適切**
- ⑨ 海外研修が開催されないことにとっても残念に思っています。国内研修の機会が増えたらと感じております。(岡本)→**適切**
- ⑩ コロナ禍により防災訓練が実施出来ていないことから【6-24-42】の評価に関しましては不適切だと判断させていただきます。(宮下)→**不適切**
- ⑪ コロナ禍の事を考慮しての評価で適切だと思います。(武藤)→**適切**

- ⑫ コロナ禍で仕方ないです。しかし、コロナ禍はまだ続きそうですので計画とシミュレーションなどは必要でしょう。(勝間田)→適切

基準7 学生の募集と受入れ

【7-25】学生募集活動

7-25-44 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか

評価結果	適切：23 100%	不適切：0
------	---------------	-------

コメント欄

7-25-45 学生募集活動を適切、かつ、効果的に行っているか

評価結果	適切：23 100%	不適切：0
------	---------------	-------

コメント欄

- ① 適切だと思います。(井沢)→**適切**
- ② 内部のことがよく見えており、全職員一丸となって学生募集活動を行うことを目標としていることがよく理解できた。さらに、新しい職員にはどう伝えるべきかの点を課題としていることが理解でき、自己評価をその点で厳しくしたことがわかりました。(舟山)→**適切**
- ③ 入学者数が前年同等とのことであったが、キャパとして何%なのか知りたい。コロナ禍もあり、教室の人数的にこれまで通りの人数にしているのか知りたい。学科によって人数が違うと思われるが。(渡邊)→**適切**
- ④ 適切と考えます。(佐々木)→**適切**
- ⑤ 募集イベントが年間388回というのは驚きました。日々の活動が、高い入学者数を獲得していることがわかりました。(満岡)→**適切**
- ⑥ 良く状況を理解していると思います。(原)→**適切**
- ⑦ 同じ説明ができるように努めておられるのはすごいと思います。なかなか中高でもできておりません。(品田)→**適切**
- ⑧ 学生募集活動に関しては、当校向けの説明会も毎年実施していただき、その説明会を聞いて御校への入学意志を固める傾向にあります。また、訪問もこまめにしただき、連携しながら入学に向けての案内・指導ができていますかと思っています。(会田)→**適切**
- ⑨ 学生募集において、全教職員が学校説明出来るように、マニュアルの更新とトレーニングを行っていくことは大事なことだと思います(小澤)→**適切**
- ⑩ 様々な媒体で活動しているところがとても良いと感じました。(岡本)→**適切**
- ⑪ 高等学校に出向いての説明の際に、新しい職員の方では説明を出来る体制が整っていないとの事で、課題を設定しての評価であり適切だと思います。(武藤)→**適切**
- ⑫ 学生の募集、高校卒業後生の募集が1回だけですか。もう1回増やす検討をしたならばどうでしょう。(勝間田)→**適切**

基準 8 財務

【8-30】 監査

8-30-54 私立学校法及び寄付行為に基づき適切に監査を実行しているか

評価結果	適切：23 100%	不適切：0
------	---------------	-------

コメント欄

- ① 適切な監査が行われていると思います。(小澤)→適切

【8-31】 財務情報の公開

8-31-55 私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、適切に運用しているか

評価結果	適切：23 100%	不適切：0
------	---------------	-------

コメント欄

- ① 適切だと思います。(井沢)→適切
- ② 財務について、正しく評価されていると思います。より伝えやすいように情報公開についてはテキストベースから図や表に改善する点は非常に良いと思います。(舟山)→適切
- ③ 特にありません。(原)→適切
- ④ 一般人の人にとっては細かい数字よりは、図表などでイメージがつかめればいいのではないかと思います。(小澤)→適切
- ⑤ 情報公開の体制が整っている等の点から適切だと思います。(武藤)→適切
- ⑥ 私立 学校法に準拠し、Web でも公開していればそれでよいと思います。図表などで見やすくすることはよいことです。しかし、非常に詳細なことは必要ないと思われれます。(勝間田)→適切

基準 9 法令等の遵守

【9-33】個人情報保護

9-33-57 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実行しているか

評価結果	適切：23 100%	不適切：0
------	---------------	-------

コメント欄

- ① 適切だと思います。(井沢)→**適切**
- ② 個人情報保護に関しては法改正もあり、本年度の教職員の実施よろしくお願ひします。(舟山)→**適切**
- ③ 情報漏えいに関しては、具体的にどのようなことを行っているのかを知りたかったです。貴校は IT 専門なので、学校カリキュラムと連携させても面白いと思いました。(満岡)→**適切**
- ④ 昨今ランサムウェアによる被害が多くなっており、よりセキュリティ強化が必要になっていきますのでよろしくお願ひします。(原)→**適切**
- ⑤ 個人情報保護に関して、教職員及び学生への周知は常に必要だと思います(小澤)→**適切**
- ⑥ 適切な評価だと思います。(武藤)→**適切**
- ⑦ 個人情報保護関係の講習等は必要ですね。教職員が入れ替わって、聞いてない教職員もいると思います。(勝間田)→**適切**

基準 10 社会貢献・地域貢献

【10-36】社会貢献・地域貢献

10-36-63 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか

評価結果	適切：23 100%	不適切：0
------	---------------	-------

コメント欄

- ① いろいろな分野で社会貢献・地域貢献を行っているのが理解できました。(小澤)
→適切

10-36-64 国際交流に取り組んでいるか

評価結果	適切：23 100%	不適切：0
------	---------------	-------

コメント欄

【10-37】ボランティア活動

10-37-65 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか

評価結果	適切：23 100%	不適切：0
------	---------------	-------

コメント欄

- ① 私が日本動画協会で行くつか委員を担当しております関係で、コメントというか参考程度にご意見を聞いてみたいことが一つあります。動画協会の産学連携プログラムである「アニメ人材パートナーズフォーラム」にて、学校教育と就業を結ぶ実習等に関して議論していたりします。参加等を検討されたことはありますか？教育機関の視点から不十分な点があるようであれば、と思ひまして。※私が、このプログラムの担当者というわけではないので、本当に参考程度です。(鈴木)
→適切
- ② 適切だと思います。(井沢)→適切
- ③ 前半同様やはりコロナ禍での未実施により評価が下がってしまっているのが残念ですが、この先の取り組みに期待したいと思います。(木下)→適切
- ④ コロナ禍でボランティアができないなど仕方がない部分もありますが、課題を明確にし、厳しく適正に評価されていると思います。(舟山)→適切
- ⑤ コロナ禍でなかなか対応が難しいこともありますが、With コロナの中でできることを検討・模索しながら、新しい取り組みの形を推進いただければと思います。(佐々木)→適切
- ⑥ 最近では貴校に訪問させて頂いていないので分からないのですが、入退者管理で、以前は受付で紙に記載していましたが、現在も同じでしょうか？ペーパーレス化に取り組めると思います。(満岡)→適切

- ⑦ 新型コロナで大変な時期ですが、出来る限り取り組みを継続されている点は評価できると思います。多少国際交流が3で他は2というのはアンバランスな気もしますが、とりあえず、環境に準じてどのような対応をしたかで違いが出ているのかなと思います。適切としました。(原)→適切
- ⑧ コロナの収束を前提とせず、オンライン等、コロナの影響を受けないボランティア活動、交流活動を検討する必要があるのではないのでしょうか。(谷)→適切
- ⑨ 学生のボランティア活動への支援について理解できました。コロナ禍以後の活動を期待します。(小澤)→適切
- ⑩ コロナ禍を考慮しての評価で適切だと思います。(武藤)→適切
- ⑪ 地域社会や高校等にも結構講習をしていますね。続けてください。(勝間田)→適切

総合評価 【学校の改善に資するご意見】

評価結果

コメント欄

- ① あらためて、詳細まで細やかに検討、対応されていらっしゃるのわかります。先生方の熱意が、学生さんのモチベーションにうまくリンクすると良いですね。(井沢)
- ② このコロナの状態が今後は「想定内」となるよう、新しい考えと取り組みの構築を検討していければと思います。(木下)
- ③ なかなか難しいPDCAを回す土台がしっかりできており、現状に満足せず新しい課題を見つけ、常に解決する点が素晴らしいと思いました。今後もより良い学校運営をお願いします。(舟山)
- ④ 全体的にコロナ禍で実施できなかったとの話が多く感じられた。仕方がないことであるが、コロナ禍以前に評価項目をタイムリーに見直し、理想的な学校運営に向けた評価ができるように改善いただきたい。評価項目が古いままでは評価や改善の意味がなくなってしまうように感じました。(渡邊)
- ⑤ コロナ禍の中で授業だけでなく様々な対外活動等が制限される中、教職員の皆様の工夫や尽力により、しっかりと取り組みがされていると思います。今後の活動にも期待しています。(佐々木)
- ⑥ ご報告いただきありがとうございます。全体的に非常に積極的に取り組まれていることがわかりました。退学率の減少、卒業生の社会的評価向上に関しても積極的にアンケート収集し、その後データ活用に取り組まれている。ナレッジが溜まってきますと更に精度も上がってくると思います。期待しております。(伊藤)
- ⑦ 毎回、丁寧に分かりやすいご説明ありがとうございます。活動が制限されてしまう項目がありましたが、逆に効率的に業務を行える部分もあるように感じました。最適化を行い、貴校の価値向上と日本のエンジニア数増加に繋がることを願っております。(満岡)
- ⑧ とても良く活動され、さらにそれを分析され評価しているものと思います。0-1-4では新設学科についてDXスペシャリスト科の新設は時代に則した対応だと思います。ただ、5-21-38産学連携による卒後の再教育プログラムについて、必要ないと考えられていたのは少し残念に思いました。企業のDX化においては、社会人リスクリングも言われており、これからは必要ではないかと思えます。(原)
- ⑨ 新たな取り組みに対しての評価基準を構築する必要性を感じつつも、評価項目を毎年変えてしまうと経年評価ができなくなってしまうので、このあたりのバランスが大切になるかなと思います。(米井)
- ⑩ 様々な改善に向けてのお取り組みを伺って参考にもなりました。まだまだコロナ禍の影響もあり、学生さんの活躍できる場や機会も限られているとは思いますが、今後を楽しみにしたいと思います。(品田)

- ⑪ 資格取得 100%と力を入れているということを、本日の会議で理解いたしました。本年度から、当校が留学生の N2 対策講座を実施させていただいておりますが、3 月末にお話をいただき、4 月頭にすぐカリキュラムなどの提出準備をする必要があったため、今後の取り組みに関してわかっている範囲で、事前にお知らせいただけていたらありがたかったです。御校とは連携をとって、志望者の入学をはじめ、特別講座の実施などを引き続きさせていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。(会田)
- ⑫ 「3-9-14 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか」についてです。ここで示される「教育課程編成委員会」と「0-1-1-1 「学修成果（ラーニングアウトカム）の再設定」」で示される プロジェクトの関係、および整合性が確認できませんでした。言うは易く行うは難しを承知で申し上げますが、委員会、プロジェクト、部課などの組織構成、および組織の目的と関係性がわかる図、表が資料にあると素晴らしいと存じます また、各評価項目が概ねどの組織に関わるものか分かれると評価や課題対応も進めやすいのではないかと存じます。(谷)
- ⑬ 学園のスタッフの皆さんが多方面にわたり熱心に努力されているのが理解できました。オンラインに力を入れた教育の充実に増々取り組んで頂きたいと思えます。(小澤)
- ⑭ コロナ禍での事業推進は大変だと思われませんが、よくやっておられると思いました。今後とも躍進されますよう期待しております。(大山)
- ⑮ キャリア教育の充実、手厚いサポートを実感しているため特に改善してほしい点はありません。(笹原)
- ⑯ 海外研修が行うことができないことに対しての国内研修の機会を増やしていただきたい。また校内においての防犯をもう少し徹底していただきたいです。(岡本)
- ⑰ コロナ禍により実施出来なかった部分に関しましては、致し方ない部分があると感じましたが、以前よりも規制が緩和されるようになってきた為、流行以前までとはいませんが出来ることは増えてきているのではないかと感じました。例としましては防災訓練やボランティア活動、研修等の実施などが挙げられます。一学生としましては短い学校生活の中で出来るだけ多くの機会を頂きたいと考えておりますので検討して頂けると幸いです。(宮下)
- ⑱ 信号待ちの生徒への苦情が以前何件か来ていましたが、学校の入り口にわかりやすい看板の設置をしてはいかがでしょうか。今現在設置されている看板は生徒の目に入りづらいようで度々、通行の邪魔になってしまっているのを確認しております。(水山)
- ⑲ 一つ気になったのは遠隔授業についてです。遠隔授業によって、学生への学習定着率が低下しているとテレビで見たことがあります。実際に周りの目がないことで、私の目から見ても授業に対する意欲の低下が見られると思います。今後遠隔授業を続ける際は、そちらの方を踏まえた改善をお願いしたいです。(森)
- ⑳ 新型コロナの影響を受け、思うように行かない事も多々あるかと思いますが、学生として、できる限りイベントの開催は小規模でも行って欲しいと考えております。また、学校外でのボランティア活動等も少しずつ増えてきている状況ですの

で、現状行っている活動以外の案内が多くあると嬉しく思います。これからも大変であるかと思いますが、よろしくお願い致します。(武藤)

- ② 学校運営や学生に対し、一般的に学校は努力していることが伺えます。(勝間田)

IV 令和4年度第一回学校関係者評価委員会議事録

日 時：令和4年7月11日 13：30～16：45

場 所：日本電子専門学校 1B11 教室（オンライン）

学校関係者評価委員：

名 前	所 属（役 職）	区 分
鈴木 周祐	株式会社びえろ（人事総務部リーダー）	企 業
井沢 祐	株式会社ファンコーポレーション （研究開発部 ディレクター）	
木下 幸弘	株式会社ジェイスリー （エグゼクティブ・アドバイザー）	
舟山 大器	株式会社横浜環境デザイン（社長室長）	
佐々木 伸彦	ストーンビートセキュリティ株式会社 （代表取締役）	
渡邊 登	合同会社ワタナベ技研（代表）	
伊藤 好宏	JTP 株式会社（技官）	
篠原 たかこ	CG-ARTS（教育事業部 事業部長）	
満岡 秀一	一般社団法人 IT 職業能力支援機構（理事）	
原 洋一	一般社団法人コンピュータソフトウェア協会 （理事・事務局長）	
米井 翔	一般社団法人組込みシステム技術協会 （交流推進本部 人材交流委員会 委員）	
品田 健	聖徳学園中学・高等学校	高校教員等
会田 由紀子	東京ギャラクシー日本語学校（教務部 副部長）	日本語学校
谷 伸城	株式会社アプリケーションプロダクト （プロジェクトマネージャー）	卒業生
大山 宗良		保護者

小澤 博太郎	百人町西町会（会長）	地域住民
山崎 ひかる	コンピュータグラフィックス科（2年）	在校生
笹原 萌絵	アニメーション科（2年）	
岡本 沙織	コンピュータグラフィックス研究科（2年）	
宮下 好葉	コンピュータグラフィックス科（1年）	
水山 颯花	ゲーム企画科（1年）	
森 碧人	電気工事技術科（1年）	
武藤 遼河	学生自治会代表 高度電気工学科（2年）	

日本電子専門学校参加者：

名 前	役 職
船山 世界	校長
杉浦 敦司	副校長
五十嵐 淳之	クリエイター教育 部長
大川 晃一	エンジニア教育 部長
高橋 陽介	学事部 部長
木村 佑	広報部 部長
内田 満	総務部 部長
高橋 健一	総務部 副部長
君塚 信和	管理部 部長
白石 修一	財務経理部 部長
長野 善朗	財務経理部 副部長

進行：

- | | | |
|-------|------------------------------|----------|
| 13:30 | 1. 開会（挨拶、配布資料確認） | 五十嵐 |
| | 2. 校長挨拶、学校関係者評価全体説明 | 船山 |
| | 3. 学校側参加者紹介、学校関係者評価委員紹介 | 五十嵐 |
| | 4. 学校関係者評価の進め方説明 | 五十嵐 |
| 13:50 | 5. 議長選出、委員会開始、議事進行 | 議長（舟山委員） |
| | 6. 自己評価結果の解説とその評価の報告 | |
| | 教育重点項目 | 船山 |
| | 基準2 学校運営 | 君塚 |
| | 基準3 教育活動 | 五十嵐 |
| | 基準4 学習成果 | 高橋 |
| | | 大川 |
| | | 船山 |
| | ・・・評価結果の判定（評価）・・・ | |
| | 基準5 学生支援 | 高橋 |
| | | 五十嵐 |
| | | 杉浦 |
| | 基準6 教育環境 | 五十嵐 |
| | | 内田 |
| | 基準7 学生の募集と受入れ | 木村 |
| | 基準8 財務 | 長野 |
| | 基準9 法令などの遵守 | 内田 |
| | 基準10 社会貢献&地域貢献 | 木村 |
| | ・・・評価結果の判定（評価）・・・ | |
| 15:00 | 7. 令和4年度教育重点項目 | 船山 |
| 15:10 | 8. 意見交換 | |
| 15:35 | 9. 全体会終了 | |
| 15:45 | 10. 分野別分科会（企業・職能団体委員） | |
| | 分野ごとにオンライン会議システム（Zoom）を利用し実施 | |
| 17:00 | 11. 分野別分科会終了 | |

1. 全体会自由意見

自由意見：

自己点検評価の評価（適正・不適正）終了後、学校関係者評価委員より自由に意見を頂戴する時間を設けた。次年度の学校運営や教育活動に直接的、間接的に反映できる意見も多々あり、以下にその記録を報告する。

【(企業／デザイン) 株式会社ジェイスリー 木下様】

約2時間の発表を聞き、真摯に取り組まれていることに感銘を受けました。

自己評価につきまして、非常に厳しく評価をしていることは今後に繋がると思っています。一部評価に該当しないものも見受けられましたので、その項目は低評価ではなく今後に向けて新たな評価の基準として作成されたほうが良いと思いました。(自己評価 5-21-38)

また、再来年度新たに設置されますDX科につきましては、今後使える技術力の向上としては非常に社会の役に立つものになると思いますので期待しております。しかし、技術力だけではDXが活用できない例が既にありますので、DXが社会に対してどんな役に立つのかを含めて教育のプログラムの中に入れていただければと思います。御校の次の発展のために参考になればと思います。

【(企業／情報)合同会社ワタナベ技研 渡邊様】

評価につきまして、コロナ禍により実施できなかったとの意見が多々あり、それは仕方なく当然だと思えます。しかし、「学校の評価」という点で、コロナ禍が既に約2年経過しているにもかかわらず、コロナ禍であるという前提条件を踏まえずに評価項目が構築されています。評価項目自体を考え直す必要があると感じました。例えば緊急事態宣言が再び発令された際に、来年も「コロナ禍により実施できなかった」という評価になってしまうのではないかと思いました。新たに取り組まれますDXも含めて、「今の状態に対してどのように評価するのか」評価項目をタイムリーに見直していく必要があると思えます。

今回の評価につきましては、評価項目を見直した上で取り組んでいただければと思います。

【(職能団体／電子)一般財団法人組込みシステム技術協会／株式会社インフォテック・サーブ 米井様】

評価につきまして、毎回ですが厳しい評価をつけているという印象を感じました。自己評価をもう少し高くしても良いと思えます。しかし、評価を厳しくして、より良いものにしようという姿勢も感じますので、今後も継続していただければと思います。

評価項目につきましては、渡邊様と同様のことを思っており、変える必要はあると思えますが、評価項目は毎年同じもので定常的に凶るものでもあります。新たに評価項目を作成することも重要ですが、毎年ある程度決まった項目で評価することも大事だという点を忘れないでいただければと思います。

【(地域) 小澤様】

コロナ禍により、町会も大きな影響を受けていますが、学園関係の町会役員の方には会があった際に出席をいただき、意見をいただいております。コロナ禍でも志を忘れずに、努力している学園スタッフの皆さんには、オンライン教育に重点を置いて教育の充実に取り組んでいただきたいと思いますと思っております。

【(保護者) 大山様】

初めて参加させていただきましたが、多彩な評価項目を設定し、コロナ禍により活動が制限されているにもかかわらず、一つ一つ真摯に取り組まれているように感じました。

親として、学生本人が積極的に取り組んで能力を開発していくこと一番根幹にあると思っております。先生方の真摯な取り組みがあれば、後は学生本人に任せるしかなく、学生本人の問題だと温かい目で見ると思っております。

親としては、先生方にお任せするしかない部分が多々ありますので、今後ともよろしくしたいと思います。

【(在学生) 岡本様】

海外研修につきまして、コロナ禍で実施できないのは仕方ないのですが国内研修の実施や企業との連携をもっと増やしても良いと感じました。
また、学科内の縦のつながり（先輩・後輩）がもっとあれば良いと感じました。

【(企業/電気) 株式会社横浜環境デザイン 舟山様】

・企業でも PDCA を回していくのは非常に難しく、「言ってもやらない人」、「言ってくれの人」、「言わずにやってくれる人」の3種類に分かれます。課題をクリアしていても自ら課題を見つけていく御校の姿勢に感銘を受けました。企業もこうあるべきだと勉強させていただきました。今後もより良い学校作りをしていただければと思います。

2. 分野別分科会

分野別分科会は、以下の次第に従い、各学科の教育内容について、企業や業界団体の委員より評価を受けることを目的として行っている。同時に、業界の動向や最新事情などの収集や人材育成に関する意見交換などを積極的に行っている。

【次第】

1. 分野別分科会の目的と議事進行について
2. 令和2年度の教育活動に関する報告
 - ・就職状況
 - ・休退学・進級卒業の状況
 - ・目標資格の取得状況
 - ・各種教育活動の状況
 - ・コロナ禍対応
 - ・教育課程編成委員会の意見の活用状況 等
3. 意見交換
4. その他

【分野】

- ① 情報分野分科会
- ② ネットワーク・セキュリティ分野分科会
- ③ ビジネス分野分科会
- ④ 電気分野分科会
- ⑤ 電子分野分科会
- ⑥ ゲーム分野分科会
- ⑦ アニメ分野分科会
- ⑧ デザイン分野分科会
- ⑨ CG・映像分野分科会
- ⑩ モバイル・AI 分野分科会

令和4年7月11日

第1回学校関係者評価委員会 分野別分科会 議事録

開催日時： 令和4年7月11日（月）15：45～17：00

場 所： オンライン会議

分 野： 情報分野

学 科： 情報処理科、情報システム開発科、高度情報処理科

出 席 者： ①学校関係者評価委員

（企業）渡邊 登 合同会社ワタナベ技研 代表取締役

（合計1名）

②日本電子専門学校

蓮見 圭亮 情報処理開発科 学科長

柳橋 宏樹 情報システム開発科 学科長

糠盛 創 高度情報処理科 学科長

（合計3名）

次 第： 1. 分野別分科会の目的と議事進行について

2. 令和3年度の教育活動に関する報告

- ・就職状況
- ・休退学・進級卒業の状況
- ・目標資格の取得状況
- ・各種教育活動の状況
- ・コロナ禍対応
- ・教育課程編成委員会の意見の活用状況

3. 意見交換

4. その他

議 事： 議題1 令和3年度の教育活動に関する報告について

<意見>

（就職について）

- ・成績証明書、卒業見込み証明書等、企業が求める応募書類の電子化に対して学校が対応できていないため、電子発行ができるようにしたほうがよい。
- ・留学生はコロナ禍であってもチャンスが広がっている。最近、国籍関係なくITの技術だけで評価されるように見受けられる。

（休退学・進級について）

- ・できる、できない学生に対して二分割、三分割してそれぞれに区分けしてそれぞれ対応すべきではないか。ただし、下の子のフォローだけで先生の工数が半分以上割かれているので、それを改善できる

- ような仕組み（paiza の活用など）がもっと必要なのではないか。
- ・オンライン授業中に寝てしまう学生がいる話については、知識系をオンライン授業でやること自体難しいのではないか。オンライン授業では、協調系とかスキル系を実施する方が望ましい。知識系をやるとしても、オンラインならでは仕掛けが必要ではないか。
 - ・せっかく対面授業ではできないことをやっているのだから、オンライン授業ならではのこともっと取り組んでほしい
 - ・技術に対する興味が薄れているように感じられる。学生は授業内容について想像がまだできないので、この授業内容、技術が実際のどの部分で利用されているものなのかを示し、もっとワクワクするような仕掛けを準備すべき。

（目標資格について）

- ・自分が説いている問題が現場でどのように活用されるのかをもっと紐づけできると受験の動機付けにつながるのではないか。セキュリティなどは事例に結びつけやすいので、工夫してみるとよい。

（教育活動について）

- ・エントリーしやすい初心者向けコンテストがあると、JN の学生や JY、JZ の中堅層、下位層の学生も参加しやすいため、評価委員の方でもそのようなコンテストについて検討していきたい。
- ・今年度から小学生からプログラム必須なカリキュラムになってしまっているため、総じて中・高向けコンテストのレベルについても急激に上がっている。そのため、高校や専門学校から IT を学び始めた学生に対するフォローはもっと考える必要がある。
- ・専門学校は職業訓練の場であるので、その点も踏まえてコンテストにどう取り組むかは考える必要がある。
- ・ゼロからやるのではなく、今までの蓄積を引き継いで次年度以降に続くように取り組む必要がある

（教育課程編成委員会の意見の活用状況等について）

- ・JN が Azure を採用したことについては賛成である。Azure をやっておけば AWS、GCP にも一通り応用が効く。
- ・IoT の学習をするにあたり、API のコードを写しているだけになりがち、Scratch などのサービスを活用した事例があるため、JZ でも検討してみて良いのではないか。

ま と め： 学習面での学生対応、評価資格としての資格取得、求められる人材像と就職状況、教育活動など、多面的に意見をいただきました。総じて、オンライン授業が一般化しつつある中で、対面授業ではできないオンライン授業ならではのことについて検討し、学生が自発的に学習する

ような仕掛けを取り入れていくべきという意見の方向性が見られました。本委員会でいただいた意見を各学科で検討し、今後の教育活動へ活かして参ります。

以上

令和4年7月11日

第1回学校関係者評価委員会 分野別分科会 議事録

- 開催日時： 令和4年7月11日（月）15：45～16：45
場 所： オンライン会議
分 野： ネットワーク・セキュリティ分野
学 科： ネットワークセキュリティ科
出 席 者： ①学校関係者評価委員
(企業) 佐々木 伸彦 ストーンビートセキュリティ株式会社
代表取締役 チーフ・セキュリティ・アドバイザー
(合計1名)
②日本電子専門学校
姜 怜和 ネットワークセキュリティ科 学科長
(合計1名)

- 次 第： 1. 分野別分科会の目的と議事進行について
2. 令和3年度の教育活動に関する報告
・就職状況
・休退学・進級卒業の状況
・目標資格の取得状況
・各種教育活動の状況
・教育課程編成委員会の意見の活用状況
3. 意見交換
4. その他

- 議 事： 議題1 昨年度の教育活動実績について
(1) 2021年度在籍（進級）状況

クラス	入学者	進級生	
21CC01	38名	33名	86.8%
	退学3名 休学2名 転科1名		
21CC02	39名	28名	71.7%
	退学8名 留年2名 除籍1名		
計	77名	61名	79.2%

- (2) 学科目標資格取得状況：100%
2021年度の目標資格（シスコネットワークングアカデミー）
「CCNA Routing and Switching」 Routing and Switching
Essentials

- (3) 就職内定状況 卒業対象者 61名（内1名は留年、未内定者0名）：

就職 100%

(4) その他資格取得状況： 24名

LPICLevel1/LinuCLevel1：6名、

LPICLevel2：2名

LPICLevel3：1名

Linux Essentials：8名

CCNA：4名

AWS CLF：3名

(5) 大会参加状況

- ・第59回技能五輪全国大会選考会出場

【結果】優秀技能賞（第59回技能五輪全国大会進出）

- ・第16回若年者ものづくり競技大会出場

【結果】銀賞

議題2 教育課程編成委員会の意見の活用状況

【議題1】

新規科目「Cloud デザイン」カリキュラムの内容について検討したい。

【意見】

- ・クラウドの知識は現状では、設計関係よりも優先度が高い。
- ・提供するサービスにより内容が変わるので、具体例（シナリオなど）が必要で、Webアプリケーション関係のシナリオがイメージしやすく導入が可能である。
- ・業務系システム（簡単なもの）から、オンプレとクラウド化の比較をすると応用力が広がる。
- ・クラウドの基礎的な部分を習得することが良い。

【活用】

- ・「Cloud デザイン」のカリキュラムにおいては、目標人材像を明確にして具体例（シナリオ）の作成。
- ・企業連携可能な企業を探し、具体例（シナリオ）を基に共同開発コンテンツ作成まで視野を広げて、企業連携カリキュラムとして構成を検討。

【議題2】

新規科目「Cloud デザイン」カリキュラムの導入の意義や企業連携カリキュラムの開発コンセプトについて検討したい。

【意見】

- ・セキュリティ診断ではクラウド環境が多い。
- ・クラウドとオンプレの相違の認識が必要である。

- ・使用できるクラウドサービスを実習に含める方がよい。
- ・今までの技能をもとにクラウドサービスを活用して完成させる方向がよい。

【活用】

- ・連携可能企業と契約をし、上記意見を開発内容に反映させて制作のスケジュール及び制作作業を開始（令和3年度は授業講義資料の作成完了）。
- ・令和4年度4月より環境構築及び実習内容を後期授業に合わせて完成させる予定である。

ま と め： 業界で求めている技術に伴う資格取得者(LinuC、LPIC)の増加や就職状況について、2クラスとも100%達成だったことは業界の人材不足や大卒より即戦力である専門卒を望んでいることを再認識した。

また、外部競技大会の結果として、若年者ものづくり大会で銀賞の獲得や技能五輪選考会で技能優秀賞を獲得し、本選進出を果たしたことは出場学生の自信につながり、社会人になっても成長ができるよい機会になったと考える。本大会にとどまらず、幅広く外部大会に参加させることができるよう運用していくことが必要である。

国内での関心度が高まっているセキュリティ業界のインターンシップについて、情報共有を行い学科としてどう活用すべきかを工夫する必要がある。

以上

令和4年7月20日

第1回学校関係者評価委員会 分野別分科会 議事録

- 開催日時： 令和4年7月11日（月）15:45～16:45
- 場 所： オンライン会議
- 分 野： ビジネス分野
- 学 科： 情報ビジネスライセンス科
- 出 席 者： ①学校関係者評価委員
(団体)原 洋一 一般社団法人ソフトウェア協会 理事 事務局長
(合計1名)
- ②日本電子専門学校
谷口 英司 情報ビジネスライセンス科 学科長
(合計1名)

- 次 第： 1. 分野別分科会の目的と議事進行について
2. 令和3年度の教育活動に関する報告
- ・就職状況
 - ・ドロップアウトの状況
 - ・質保証に対する資格の取得状況
 - ・各種教育活動の状況（特別活動、プロジェクトなど）
 - ・教育課程編成委員会の意見活用状況 等
3. 意見交換
4. その他

- 議 事： 議題1 令和3年度の教育活動報告について
別紙資料をもとに、以下の項目について報告し、意見等を求めた。
- (1) 就職状況
 - (2) 休退学、進級卒業の状況
 - (3) 目標資格の取得状況
 - (4) 各種教育活動の状況（特別活動、プロジェクトなど）
 - (5) 教育課程編成委員会の意見活用状況

<意見>

全体的には、退学者も多くないし、資格もしっかり取られており、就職、資格取得など良くやられていると思う。就職氷河期世代向けの教育と就職支援を行っているが、資格取得、就職がとても大変である。そういう意味でも専門学校として良くやっていると思う。学科として評価出来る部分である。

新設される「DXスペシャリスト科」については大賛成。業界内でも人材不足。一般企業内でもDXがわかる人材が少ない状態。その辺にしっかりとした学科を持たれるというのはすごく重要だと思う。何か

必要なことがあれば言って頂ければ、協会としても対応したいと思う。

<質問>

- ・就職を希望しなかった1名はどういう事情か。
→在学中から行っているアルバイトを続けるとのこと。
- ・人数は例年このくらいだったか。
→3月に卒業した学生は少し少なかったが、例年20名前後である。
- ・学生の年齢層は。
→留学生を除くと、高校新卒が多い。他学科からの転科生も多い。
- ・転科生は資格取得のためか。
→プログラミングについていけなかったり、入学前に思っていた学習と違っていたなどの理由で、転科する学生が多い。

その他

特になし。

ま と め: 伺った意見は、今後の学科運営にとって参考になるものであったので、今後の検討課題とし、反映を目指していく。また必要に応じて、教育課程編成委員会での検討事項としても取り上げる予定である。

以上

令和4年7月11日

第1回学校関係者評価委員会 分野別分科会 議事録

開催日時： 令和3年7月11日（月）15:45～16:45

場 所： オンライン会議

分 野： 電気分野

学 科： 電気工事技術科、電気工学科、高度電気工学科

出 席 者： ①学校関係者評価委員

（企業）舟山 大器 株式会社横浜環境デザイン

PV事業部 営業戦略室 室長

（合計1名）

②日本電子専門学校

高橋 俊幸 電気工事技術科 学科長

山路 哲平 電気工学科・高度電気工学科 学科長

（合計2名）

次 第： 1. 分野別分科会の目的と議事進行について

2. 令和3年度の教育活動に関する報告

・就職状況

・休退学、進級卒業状況

・目標資格

・コロナ禍対応（教育活動、特別活動、プロジェクトなど）

・教育課程編成委員会の意見活用状況 等

3. 意見交換

4. その他

議 事： 議題1 令和3年度の教育活動報告について

<意見>

・昨年度の教育課程編成委員会の意見をうまく活用できているとご意見いただいた。

議題2 就職状況について

<意見>

学科	人数	就職率
電気工事技術科	21名	100%
電気工学科	15名	100%
高度電気工学科	8名	100%

・コロナ禍の中でも安定して就職できている点を評価いただいた。

・創エネ、畜エネに関する需要も益々高まっているため、学生の進路の選択肢として入れると良いと意見をいただいた。

議題3 ドロップアウトの状況

<意見>

学科・クラス	年度 初期人数	年度 終了時 人数	ドロップアウト理由	
電気工事 技術科	20KK	23名	21名	健康上
	21KK	37名	36名	就職(自営)
高度電気 工学科	19KZ	8名	8名	—
	20KZ	11名	10名	・進路の見直し(1名) ・退学後就職
	21KZ	10名	10名	—
電気工学 科	20KJ	18名	16名	・進路の見直し(2名) ・別業種へ挑戦 ・退学後就職
	21KJ	26名	23名	・仕事と学業の両立が困難(1名) ・健康上の理由(1名) ・進路の見直し(1名) ・退学後就職

- ・休退学の理由はいずれも仕方ない内容で、対応も十分実施している
とご意見いただいた。
- ・学生の進路について、コミュニケーションをとりつつ希望に沿った進
路指導を、引き続き心掛けると良いとご意見いただいた。

議題4 資格の取得状況

<意見>

学科・ クラス		第二種 電気工事士	第一種 電気工事士	第三種 電気主任技術者 *1
電気工事 技術科	20KK	-	8 / 21 名 38.1%	—
	21KK	36 / 36 名, 100%	5 / 18 名 27.8%	—
高度電気 工学科	19KZ	8 / 8 名, 100 %	7 / 8 名 , 87.5 %	0 / 8 名, 0 % (3 / 8 名 , 37.5 %)
	20KZ	8 / 10 名, 80 %	9 / 10 名, 90 %	0 / 10 名, 0 % (2 / 10 名 , 20 %)

	21KZ	6/10名, 60%	6/10名, 60%	0/10名, 0% (2/10名, 20%)
電気工学科	20KJ	15/16名, 93.8%	9/16名, 56.3%	0/16名, 0% (3/16名, 18.8%)
	21KJ	20/23名, 87.0%	15/23名, 65.2%	1/23名, 4.3% (4/23名, 17.4%)

※1 括弧内は科目合格者数

- ・十分な実績を出せているため、今まで通りサポートを続けていくのが良いとご意見をいただいた。

議題5 コロナ禍における各種対応

<意見>

- ・教育活動と学生の安全衛生を考慮して、適切な配分でオンラインと対面授業を併用するのが良いとご意見いただいた。
- ・コロナ化において特別活動の実施が難しくなることは仕方ないので、可能な範囲で企業と連携して教育活動を進めていくのが良いとご意見いただいた。
- ・特別活動についても、感染対策に十分配慮しつつ、可能な範囲で計画すると良いとご意見いただいた。

ま と め: 専門教育に加えて資格取得や就職面など、学生に対して十分な教育ができていると前向きな意見をいただいた。技術の養成だけでなく、学生一人一人のニーズに合った教育を提供し、満足度と学習成果を高めることが重要だと改めて感じた。

以上

令和4年7月30日

第1回学校関係者評価委員会 分野別分科会 議事録

開催日時： 令和4年7月11日（月）15:45～16:45

場 所： オンライン会議

分 野： 電子分野

学 科： 電子応用工学科

出 席 者： ①学校関係者評価委員

（団体）米井 翔 一般社団法人組込みシステム技術協会
研修副委員長

（合計1名）

②日本電子専門学校

仲田 英起 電子応用工学科 科長

（合計1名）

- 次 第：
1. 分野別分科会の目的と議事進行について
 2. 令和3年度の教育活動に関する報告
 - ・各種教育活動の状況（特別活動、プロジェクトなど）
 - ・就職状況
 - ・入学数、ドロップアウトの状況
 - ・質保証に対する資格の取得状況
 - ・コロナ禍対応
 - ・教育課程編成委員会の意見活用状況
 3. 意見交換
 4. その他

議 事： 議題1 令和3年度の教育活動報告について

<意見>

（各種教育活動の状況）

- ・専門学校ロボット協議会の代わりに ET ロボコンなどを検討してはどうか。ET ロボコンは業界の関係者も多数みているので就職などにもつながるようである。

（就職状況について）

- ・コロナ禍でも最終的に希望者 100%達成している点は継続してほしい。

（入学数とドロップアウト状況について）

- ・ここ最近の状況について意見交換を実施した。
- ・全体会での募集活動に関連した質問
高校等ガイダンスでの状況はどうか
他部署も募集活動に行くのかどうか
電子系の募集パスはどうなっているのか など

- ・電子応用での現在の募集活動
- ・高校生にイメージがつきにくいので、インタビューなどイメージに繋がりのやすいコンテンツを今以上に増やしたらどうか。(電気電子系はイメージがつきにくい)
OCやSNS(広報の担当者が実施している件)などを報告した。
(資格関係について)
- ・基本情報は次年度からCBT通年開催になるので受験しやすくなると考えられる。
- ・無線の資格は5Gに関連した基地局関係の就職が望める。
(コロナ対策について)
- ・引き続きの対策を報告し問題ないことが確認された。
(教育課程編成委員会意見の活用状況)
- ・活用状況に問題ない。
(活用状況:マイコンボードの更新に関して)
- ・H8は終息品、機種選定はメーカーのくせが出ないような(汎用的に扱える)ものを選定されていればよい。
- ・基本的な事項(レジスタアクセスなど)も抑えられているならコスト的な部分で選定してもよい。
- ・半導体の調達に苦労するのでその部分が懸念材料になるのではないか。
(活用状況:カリキュラムの更新関係について)
- ・以前の通年週8駒から3.5駒になっている現状では増やして実践的な内容を充実させた方がよい。
- ・業界としては専門的な内容は継続してほしいが、全員にやる必要はないので卒業生作などのテーマ型授業でそれぞれの深堀させるのはよい。
- ・業界としては全員には広く浅く学ばせ、進路に応じて深掘りできるのが理想(但し教員の運営が大変ではないか)特に企業では自社で必要な技術は新人研修とかで実施するためベースの広い知識が身に付いていると技術者として素質が高まる。

その他

<意見>

- ・業界団体の学生向けセミナーのご案内をいただいた。

まとめ: 状況を報告して概ね方向性等は問題ないことが確認できた。採用状況など業界の動向を伺うこともできた。これらの情報は今後学生の就職指導などに役立てていきたい。今後のカリキュラム改正にあたっては学科の考えは業界の方向性にあわせても問題がないことが確認できたため、業界で必要な要素技術を抑えつつ基礎基本をしっかり教育できるようにしていきたい。

以上

令和4年7月18日

第1回学校関係者評価委員会 分野別分科会 議事録

- 開催日時： 令和4年7月11日（月）15:45～16:45
場 所： オンライン会議
分 野： ゲーム分野
学 科： ゲーム制作研究科、ゲーム制作科、ゲーム企画科
出 席 者： ①学校関係者評価委員
(企業) 井沢 祐 株式会社ファンコーポレーション
企画デザイン部マネージャー
(合計1名)
- ②日本電子専門学校
栗原 央道 ゲーム制作研究科 学科長
井上 直樹 ゲーム企画科 学科長
(合計2名)

- 次 第： 1. 分野別分科会の目的と議事進行について
2. 令和3年度の教育活動に関する報告
・就職状況
・休退学、進級・卒業の状況
・目標資格の取得状況
・各種教育活動の状況（特別活動、プロジェクトなど）
・教育課程編成委員会の意見の活用状況
3. 意見交換
4. その他

- 議 事： 議題 令和3年度の教育活動報告について
(各学科よりそれぞれの活動について報告)

<意見>

- ・就職状況、ドロップアウト、目標資格の取得状況については各学科先生方の想いもあり改善がみられていると思う。更に向上を目指し、そのまま頑張ってもらいたい。
- ・各種教育活動の取り組みについては、前回の意見を踏まえて様々な取り組みがされていることが伺える。特にゲーム分野で実施された進級・卒業作品展示会や、ゲーム制作研究科のメンター制度も更に充実されると良い。
- ・オンライン授業について、恒常化している感もあるが工夫などが必要かと思われる。就職活動の面接においても、オンライン越しでのマスク着用のため顔色などが伺えないことなど、ゆるい感じが見られることが多く印象が良くないのではないかと。
- ・プランナーのカリキュラムについてだが、ゲーム体験（制作・プレ

イ) が絶対的に必要。あるゲーム企業で大学の文学部を卒業した人と仕事をしているが、正直「なぜ、この人をプランナー職で採用したのか」と疑問に思うほどゲームを知らない。業務内容に対する意識が低いのは問題だと思う。逆にこの部分は専門学校の強さにして欲しい。

ま と め: 前回いただいたご意見を踏まえて実行してきた部分に対し、一定の評価をいただいた。更に充実していく為に、まだ実施できていない項目もある。例えば学内における学生同士によるコミュニケーションの創出が大きなテーマかもしれない<日本電子3学科・内部のコンペティションの実施(理事長杯・校長杯など)>や<youtubeチャンネル配信>なども今回の議題の成果を更に充実させていける取り組みでもあるので、実現に向けて動いていきたい。

卒業年次前期期間中での就職率の向上・ゲーム業界への就職率の向上・ドロップアウト率

削減はゲーム分野において大きなテーマであることは事実である。分野一体となって取り組んでいきたい。

以上

令和4年7月11日

第1回学校関係者評価委員会 分野別分科会 議事録

開催日時： 令和4年7月11日（月）15：45～16：45

場 所： オンライン会議

分 野： アニメ分野

学 科： アニメーション科、アニメーション研究科

出 席 者： ①学校関係者評価委員

（企業）鈴木 周佑 株式会社 ぴえろ 人事総務部

（合計1名）

②日本電子専門学校

坪井 翔 アニメーション科、アニメーション研究科 学科長

（合計1名）

次 第： 1. 分野別分科会の目的と議事進行について

2. 令和3年度の教育活動に関する報告

・就職状況

・休退学、進級・卒業の状況

・目標資格の取得状況

・各種教育活動の状況（特別活動、プロジェクトなど）

・教育課程編成委員会の意見の活用状況

3. 意見交換

4. その他

議 事： 令和3年度の教育活動報告について

議題1 感染対策の状況報告及び、オンライン授業の実施報告についてご意見下さい。

<意見>

・新型コロナウイルスにおける感染対策およびオンライン授業などの各対応は適正だと思う。

・作品上映会もコメントだけでなく、上映中のリアクションが得られないのは残念。実施の在り方はよく考えなければならないが、ライブ配信でチャットを利用するなどして工夫してはどうか。

議題2 2/7~2/20の2週間、冬期ポートフォリオ講評会をオンライン形式で開催した。開催内容や在り方についてご意見下さい。

<意見>

・学生数に加えて作品数も多いため、一人ひとりへのコメントを残すには時間的に難しい面もある。ただ、全く意見を貰えなかった学生は残酷な気がする。

その他

- ・取得する資格は限定的すぎる気がする。選択の幅を増やし、職種に応じた資格を学生自身が選択出来なくては、これ以上の数値は期待できないのではないか。

ま と め： 今年度も引き続きコロナウイルス感染症対策により、オンライン授業をはじめ運用が大きく変わったものの、本校アニメ系学科の教育活動に対して、例年通り概ねご賛同を頂けた。
今後もオンラインによる授業や就職活動が続くことが予想されるため、委員から頂いた意見を学科で共有し、質の向上を図るための検討を進めていきたい。

以上

令和4年7月15日

第1回学校関係者評価委員会 分野別分科会 議事録

開催日時： 令和4年7月11日（月）15：45～16：45

場 所： オンライン会議

分 野： デザイン分野

学 科： Webデザイン科、グラフィックデザイン科

出席者： ①学校関係者評価委員

（企業）木下 幸弘 株式会社ジェイスリー 顧問

（合計1名）

②日本電子専門学校

小山内 靖美 Webデザイン科 学科長

植田 誠一 グラフィックデザイン科 学科長

（合計2名）

次 第： 1. 分野別分科会の目的と議事進行について

2. 令和3年度の教育活動に関する報告

（Webデザイン科・グラフィックデザイン科）

- ・就職状況
- ・休退学、進級・卒業の状況
- ・目標資格の取得状況
- ・各種教育活動の状況（特別活動、プロジェクトなど）
- ・教育課程編成委員会の意見活用状況 等

3. 意見交換

4. その他

議 事： 報告1 令和3年度教育活動報告について（Webデザイン科）

- ・休学・退学・進級・卒業状況
- ・就職状況（内定率、内定先、職種別内訳）
- ・目標資格取得状況
- ・学科の取り組み（コンテスト関連、競技会関連、展示会関連、その他特別活動）
- ・今年度の新生について
- ・教育課程編成委員会で挙げた意見の活用状況

報告2 令和3年度教育活動報告について（グラフィックデザイン科）

- ・休学・退学・進級・卒業状況
- ・就職状況（内定率、内定先、職種別内訳）
- ・目標資格取得状況
- ・学科の取り組み（コンテスト関連、競技会関連、展示会関連、その他特別活動）

- ・教育課程編成委員会で挙げた意見の活用状況

<ご意見>

- ・就職内定職種としてももう少しデザイナー職に就けると良い。
- ・様々な制限がある中で、多くのことに取り組んでいる。
- ・ドロップアウトが多い。
- ・留学生の入学者が少ない。

議題2 コロナ禍における授業形態に関して

<ご意見>

- ・実習は対面授業、座学はオンライン授業で基本的には問題は無いと思うが、資格取得や座学授業でも、見直せるメリットがある科目に関してはオンデマンドで実施してみても良いのかもしれない。科目を吟味して試験的に導入する価値はあると思う。

議題3 昨年から現在までの（株）ジェイスリー様の業務形態や変化に関して

<意見>

- ・業界でもリモートから出社を進めている会社も多くなってきており、会社で顔を合わせて雑談できる場を大切にしている。大手企業は出社に戻している。リアルになることできめ細かいコミュニケーションができる。
- ・「Web」、「グラフィック」の肩書を無くし、コーディングは例外としても、「デザイナー」として両方の業務に携わる環境にした。Web、グラフィック、それぞれに専門性を持っている社員同士が勉強し合える環境を作った。肩書は全員「デザイナー」としている。
- ・コロナ禍以前ももちろん、ビジュアルに付随する問題解決やマーケティング、効果予測までを大切にはしてきたが、より一層その部分に深みを持たせることで一つの仕事に対する厚みが今まで以上に出了。例えば、クライアントの財務状況までも考えて制作業務にあたるようになった。
- ・Webの場合、新規開発案件がすくなくなってきており、今後ますます保守・運用も含めた投資コストの方が格段に多くなっている。現場では、今以上に蓄積されたWebデータを分析しながら、一時ではなく継続的に価値を実現していくことが求められている。授業でも取り組んでほしい。

ま と め： コロナ禍において、デザイン業界も在宅ワークの導入などにより新人育成やワークフローが変わりつつある中、現状の業界のリアルを知ることができ、問題解決意識を今まで同様にカリキュラムに反映させていく必要性を再認識することが出来ました。また、技術の一人歩きでなく、目的を持って、その技術をどう人のために役立てるか、企画力

の大切さを意識して産学連携授業等に取り組んでいく必要性を感じました。Web とグラフィックの区別は問題解決、それに伴う企画ありきになり、媒体に捉われない広告手法はコロナ禍でより一層加速化した印象を持ちました。

以上

令和4年7月11日

第1回学校関係者評価委員会 分野別分科会 議事録

開催日時： 令和4年7月11日（月）15:45～16:45
場 所： オンライン会議
分 野： CG・映像分野
学 科： コンピュータグラフィックス科、コンピュータグラフィックス研究科、
CG映像制作科

出席者： ①学校関係者評価委員
（企業）篠原 たかこ様 公益財団法人画像情報教育振興協会
教育事業部 事業部長
(計1名)

②日本電子専門学校
永井 紀雄 CG映像制作科 学科長
金 統一 コンピュータグラフィックス研究科 学科長
岡野 正信 コンピュータグラフィックス科 学科長
(計3名)

- 次 第： 1. 分野別分科会の目的と議事進行について
2. 令和3年度の教育活動に関する報告
・就職状況
・休退学、進級・卒業の状況
・目標資格の取得状況
・各種教育活動の状況（特別活動、プロジェクトなど）
・教育課程編成委員会の意見の活用状況
3. 意見交換
4. その他

議 事： 議題 令和3年度の教育活動報告について
<報告>

昨年度同様、コロナ以前と比較して、CG業界ではなく、一般の会社に就職する学生が多かった。コロナになってから年々CG業界への就職が難しくなっていると感じる。中途採用が増えてきたこととあわせて、地方の優秀な新卒の学生が都内の会社にオンライン面接等に入ってくることも原因の一つかと想像できる。CG以外の職種の併願受験が必要となってきたように思う。学生の希望職種はモデラーが多いが、企業の採用はアニメーター職種が多い。求人が多いアニメーター職種に向けた学科カリキュラムを整える必要が出てきたのではないかと感じている。就職先に企業を目指すのではなく、自分で起業する学生が出た。Youtuberとして実績を得始めている。
令和3年コンピュータグラフィックス研究科の卒業生は、コロナの影

響を大きく受けた学年だった。オンラインで受講することを許可した学年だったが通常通り対面であったらより成長できたのではないかと思うと悔やまれる。

<意見>

アニメーターの求人が多くなっていることが多数の企業様から報告されている。全求人の中で、職種の割合は、アニメーター5割、モデラー2割、エフェクトとコンポジットが2割、リガーが1割（篠原様の感覚で）。2年制の学科から、3年制の学科に変更する専門学校が増えてきている。

ま と め： 学科よりコロナ禍における就職指導の現状を報告、企業様からは最新の情報をご意見としていただいたが、アニメーターの育成強化の必要性について企業側のニーズと一致していることが確認できた。いただいたご意見を今後の学科運用・カリキュラム検討に活かしていきたい。

以上

令和4年7月12日

第1回学校関係者評価委員会 分野別分科会 議事録

- 開催日時： 令和4年7月11日（月）15：45～16：45
場 所： オンライン会議
分 野： モバイル・AI 分野
学 科： ケータイ・アプリケーション科、AI システム科
出 席 者： ①学校関係者評価委員
(企業)伊藤 好宏 JTP 株式会社
グローバルビジネスオペレーション統括本部 技官
(合計1名)
- ②日本電子専門学校
大川 晃一 エンジニア教育部 部長
ケータイ・アプリケーション科 学科長
福田 竜郎 AI システム科 学科長
石黒 元康 AI システム科 (議事録)
(合計2名)

- 次 第： 1. 分野別分科会の目的と議事進行について
2. 令和3年度の教育活動に関する報告
・就職状況
・ドロップアウトの状況
・質保証に対する資格の取得状況
・各種教育活動の状況（特別活動、プロジェクトなど）
・コロナウイルス対応
・教育課程編成委員会の意見活用状況 等
3. 意見交換
4. その他
- 議 事： 議題1 令和3年度就職状況および目標資格の取得状況について
<意見>
・ケータイ・アプリケーション科、AI システム科ともに就職内定率100%は素晴らしいと思う。
・専門学校の学生にはまず技術で勝負してもらいたいので、資格については多くの学生が資格に挑戦していて素晴らしいと思う。
- 議題2 令和3年度の休退学、進級卒業の状況について
<意見>
・ケータイ・アプリケーション科で1名卒業できなかったとのことであるが、オンラインで指導しにくい点もあるかと思うが頑張っしてほしい。
・AI システム科では進級率が若干低い、今年度の取り組みも踏まえ

て少しずつでもよいので改善していくことを期待している。学生の能力と教えるべきカリキュラムで折り合いをつける必要がある。

議題3 令和3年度の各種教育活動の状況（特別活動、プロジェクトなど）

<意見>

- ・外部コンテストへの参加を通じて学生が自信を持てるようになるとよいです。

議題4 令和3年度のコロナ過対応

<意見>

- ・コロナウイルス感染拡大防止の対策は問題ないと思う。
- ・IT業界もオンラインでの在宅勤務が増えており After コロナも定着化するので、練習になってよいと思う。

議題5 教育課程編成委員会の意見活用状況

■AI システム科

<意見>

- ・CSSを自分で全て書くのは大変だが、基礎は勉強しておく必要がある。基礎を教えただけで、フレームワークを利用するとこんなに簡単になるという感じで教えるのが良い。
- ・文章の作成能力が低い学生、文章の体裁を整えられない学生が増えている。良質なインプット、書籍によるインプットが少ないのではないか？
- ・会社では客先とチャットでやりとりすることが多くなったが、文章がうまく書けない社員に対してはチャットの内容を確認している。
- ・文章作成の能力がない人に対してはインプットを増やし、文章の体裁が整えられない人は文章のアウトプットを多くするのはどうか。会社でも基本設計書、詳細設計書、ReadMe ファイル、パラメータシートなどを書くことがあるが、出来ない人はできない。ドキュメントの作成は永遠のテーマ。

■ケータイ・アプリケーション科

<意見>

- ・スマートフォン、スマホという単語よりも、モバイルという単語を用いた方が良さそうに思える。モバイルアプリ開発科、モバイルアプリケーション科などがよいのではないか？
- ・卒業制作で作成した動画は、就活時に利用できれば企業に向けてのアピールになるのではないか？

まとめ：モバイル・AI分野の分科会では、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う学校・学科の対応については問題ないとの評価を頂いた。教育課程

編成委員会での意見活用についても問題はないとの評価を頂いた。専門学校生には技術を持っていることが前提なので、AIシステム科およびケータイ・アプリケーション科ともに学生に楽しんで勉強するようにしてくださいとのご希望があった。コロナウイルスの感染拡大により学生の休退学・就職動向がこれまでと変わりつつある。オンライン授業のメリットを活かしつつ、細かな学習状況のチェック及びフォローの方法を模索してゆきたい。